

性犯罪加害者の再犯防止 — 社会内治療の有効性と今後の課題 —

玉村 あき子* 福井 裕輝*

Key Words 性犯罪 (Sexual offenses), 認知行動療法 (cognitive behavioral therapy), 性ホルモン療法 (hormone therapy), 外来 (outpatient), 社会内 (community-based)

抄録：性犯罪者にはさまざまな疾病性をもつ傾向にあり，性犯罪の防止策の一つとして早期の医学的・心理学的治療が必要である。性犯罪者に対する刑罰や社会的懲罰は再犯防止効果との関連性が低く，また現在日本で行われている矯正施設内外で再犯防止のための性犯罪者処遇プログラムでは不十分である点も多い。今後，性犯罪者の統一的・標準的な更生プログラムの研究を進め，最も効果的で有効な方法を確認することや，治療の専門的機関の設立が必要である。本稿では，非営利法人性障害専門医療センター (Sexual Offender Medical Center; SOMEC) で行っている外来型の性ホルモン治療や認知行動療法について紹介し，SOMECで治療を受け改善を示した3症例について述べる。そして，SOMECでの治療経験をふまえ，今後の性犯罪者治療の研究や実践の方向性についても提案する。

序章

性犯罪者においては，さまざまな精神的障害や脳機能障害などの疾病性をもつ傾向にあることが示されており⁶⁾，医学的・心理学的治療が必要である¹¹⁾。性犯罪の被害者を減らすための方策の一つとして，再犯防止を目的とした性犯罪者への治療がある。

現在日本では性犯罪防止を目的として厳罰化の動きが進んでいるものの，必ずしも性犯罪者に対する刑罰や社会的懲罰による再犯防止効果が高いということは示されていない。むしろさ

まざまな研究によって，量刑の種類や程度によって再犯の可能性を予測するのは難しい¹⁵⁾，または再犯率を高めるという結果を示す研究もある²⁴⁾。また，再犯の強い予測要因のうちの薬物依存や逸脱した性的関心は，矯正施設という環境の中では修正されず抑圧されるのみで，出所時においていまだリスク要因として保持されており⁷⁾，再犯リスクをもったまま出所するのである。

現在法務省は，矯正施設内外で性犯罪の受刑者や保護観察対象者の再犯防止のための体系的な制度としての性犯罪者処遇プログラムを運用

Recidivism prevention of sexual offenders: effect of community-based treatments and future tasks

* TAMAMURA Akiko and FUKUI Hiroki

NPO 法人 性犯罪加害者の処遇制度を考える会，性障害専門医療センター (SOMEC)

[〒163-1030 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー N30 階]